

10. A-C バイパス術後の心筋シンチグラムの検討

筆本 由幸 吉野 孝司

広部 一彦 小林 亨

藤本 淳

(大阪府立成人病センター・循環)

長谷川義尚 中野 俊一

(同・アイソトープ科)

虚血性心疾患に対する外科的療法である大動脈・冠動脈バイパス術も次第に本邦でも普及しつつある。われわれは狭心症4例、心筋梗塞2例に本手術を行ない、術前、術後の心筋シンチグラフィを施行した。後壁梗塞の症例ではバイパスによる心筋血流が改善されているにもかかわらず、術前・術後ともに明らかな梗塞部がシンチグラム上に認められた。他の5例は特に変化を認めなかった。しかしながら術後のシンチグラム上縦隔部に異常な RI の集積像を6例すべてに認められた。この異常集積像の認められる部位は、術後遠隔検査時に行なったバイパス造影所見と良く一致していた。バイパス造影でバイパスグラフトが胸骨に近い前部縦隔にある症例では、シンチグラム上の異常集積も鮮明に、また大動脈にあるバイパスグラフトの起始部のみが明らかな集積として描記され、造影では中部縦隔にバイパスがある症例も認められた。このように両者の一致性が高く、異常集積の原因が血中内に存在する ^{201}Tl によるものとするならば、バイパスの開存に関して新しい検査法となるものと期待している。

11. 脳梗塞における脳シンチグラムとCT像について

井上 佑一 福田 照男

芝切 一平 横山 俊昭

小野 隆男 金 玉花

大村 昌弘 越智 宏暢

玉木 正男

(大阪市大・放)

1976年11月より、脳梗塞と診断された患者のう

ちで、脳シンチとCTの両検査をうけた20例について比較検討した。そのうち10例が1週間内に両検査をうけた。

脳シンチは $^{99\text{m}}\text{TcO}_4^-$ -20mCi を肘静脈から bolus 注入し dynamic study を、その後 static image は直後と1時間後に各5方向の撮像を行なった。また、20例中7例は、 $^{99\text{m}}\text{Tc-Pyp}$ 、あるいは、 $^{99\text{m}}\text{Tc EHDP}$ でも脳シンチを行なった。

CTはEMI CT 1000 (matrix 160×160) を使用し、X線管球は120 kV 33 mA で、断層幅は通常13 mm を使用した。全例に contrast enhancement を行なった。

20例のうち、脳シンチが診断だけでなく病態把握も含めて有効であった4症例を供覧した (CTで右大脳基底核部の梗塞を指摘できたが、脳シンチでは、梗塞の描出のみでなく、CTでは診断できなかった右内頸動脈閉塞をも診断しえた症例：CTで腫瘍と梗塞との鑑別が困難であったが、 $^{99\text{m}}\text{Tc-O}_4^-$ と $^{99\text{m}}\text{Tc-Pyp}$ による脳シンチで脳梗塞の診断可能であった症例など)。

脳血管病変において、 $^{99\text{m}}\text{TcO}_4^-$ による dynamic study, static study と骨シンチ用放射性医薬品による脳シンチを併用すれば、CTではみられない情報が得られ、質的診断も多くの場合可能である。

12. γ -CBF Functional Image の臨床的検討

木村 和文 西村 恒彦

柏木 徹 青山 喬

高橋 良夫

(阪大・中放)

高野 隆 楠木 正仁

宮井 元伸 今本 哲治

長谷川健治 米田正太郎

多田 邦彦 栗山 良紘

今泉 昌利 額田 忠篤

阿部 裕

(同・一内)

局所脳血流量の functional image は脳血管障害